

Z80クロス開発環境
(XAS・XLD・ITOB)
操作説明書

- 第1版 2004/10/12 Z80 クロス開発環境 Ver.1.0 用
第2版 2006/11/19 Z80 クロス開発環境 Ver.1.2 用
第3版 2008/01/20 Z80 クロス開発環境 Ver.2.0 用
第4版 2008/04/07 Z80 クロス開発環境 Ver.2.1 用

Seiken-soft
service

1.はじめに.....	3
1.1 ご注意.....	3
1.2 サポート体制について.....	3
1.3 マニュアルの用語について.....	4
2.概要.....	5
2.1 Z80 プログラム開発概要図.....	5
3.インストール方法.....	6
4.使用期限（お試し期間）.....	6
5.起動方法.....	6
6.アンインストール方法.....	6
7.著作権.....	7
8.転載条件.....	7
9.シェアウェア登録のお願い.....	7
9.1 ユーザー登録.....	7
10.操作手順.....	8
10.1 Z80 クロスアセンブラ(XAS).....	8
10.2 Z80 クロスローダ(XLD) - コマンドライン指定.....	9
10.3 Z80 クロスローダ(XLD) - 応答ファイル指定.....	10
10.4 インテルヘキサ変換(ITOB).....	11
11. Z80 アセンブラについて.....	12
11.1 疑似命令.....	12
11.2 詳細説明.....	13
11.3 エラー処理.....	23
11.4 リスティングファイルのフォーマット.....	24
11.5 制限事項 / 特記事項.....	25
12. Z80 クロスローダについて.....	27
12.1 MAPファイルのフォーマット.....	27
12.2 絶対セクションのアドレス解決.....	27
12.3 データセグメントのアドレス解決.....	28
12.4 エラーメッセージ.....	29
13.おわりに.....	30

1.はじめに

本製品をご利用頂き、誠にありがとうございます。本製品を利用するに際し、注意事項や制限事項、操作方法をご確認下さい。

1.1 ご注意

- (1) 本プログラム及びマニュアルの一部または全部を無断で使用したり複製を取ることを禁止します。
- (2) 本プログラムはシェアウェアのため、お試し期間（インストール後20日間）を過ぎて、継続して利用する場合は、ユーザー登録またはライセンス契約が必要です。登録されない場合は、起動することができなくなります。
- (3) 当社は、ユーザー登録またはライセンス契約されたお客様が、契約の範囲内で使用することのみ許諾します。
- (4) 本プログラム及びマニュアルを運用した結果の影響については、一切責任を負いかねますのでご了承下さい。全て、お客様の責任においてご利用下さい。
- (5) 日本語版 WindowsVista/XP/2000 が動作するコンピュータでご利用下さい。
- (6) 本プログラムの仕様およびマニュアルに記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。

1.2 サポート体制について

本製品をご利用になって、トラブルや操作方法が分からないことなどございましたら、当社ホームページより、メールにて受け付けております。URL は、以下の通りです。

<http://www.seiken-soft.com>

本製品のサポートは、日本国内限りとさせていただきます。あらかじめご了承下さい。

詳細は、別紙「メール送信手引き.pdf」に記載してありますので、そちらを参照して下さい。

また、以下の内容については、本説明書では解説していません。各製品の添付マニュアルでご確認下さい。

Windows の操作方法

インターネットへの接続方法

コンピュータ本体、および周辺機器の設定および操作方法

1.3 マニュアルの用語について

本マニュアルでは各種の機能やキー操作の説明に、以下の用語、略号等を使用します。

説明は Windows2000 を基準に記述していますので、その他のバージョンでは操作方法や画面が異なる場合があります。

尚、本マニュアルの画面は解説の便宜上、実際のものとは異なる場合がありますので、ご了承下さい。

1.3.1 マウス操作の表記

クリック

マウスのボタン（通常は左ボタン）を押して、すぐに離す動作を指します。

右ボタンの場合は、右クリックといえます。

ダブルクリック

マウスの左ボタンを素早く 2 回クリックする動作を指します。

ドラッグ・アンド・ドロップ

動かしたい物の上で左ボタンを押したままマウスポインタを移動させ、目的の位置でボタンを離す動作を指します。

1.3.2 説明略号の表記

PC	パソコンの略。
KSS	株式会社セイケン・ソフトサービスの略。
Vector	株式会社ベクターの略。
XAS	Z 8 0 クロスアセンブラ
XLD	Z 8 0 クロスローダ
ITOB	インテルヘキサ変換
HDD	ハードディスクの略。
カレントフォルダ	現在選択されているフォルダを指します。
サブフォルダ	現在選択されているフォルダの配下のフォルダを指します。
フルパス	ドライブ：フォルダ名¥ファイル名で表したものを指します。
Windows	日本語 Windows Vista/XP/2000 を指します。 Windows は、マイクロソフト社の製品です。

2.概要

Z80 交叉開発環境は、PC の WindowsXP/2000 が動作する環境で、Z80 ソースプログラムをアセンブル・リンクし、インテルヘキサ形式またはバイナリ形式へ変換することのできる開発環境をいいます。本プログラムは、コマンドプロンプトよりコマンドを投入し実行を行います。

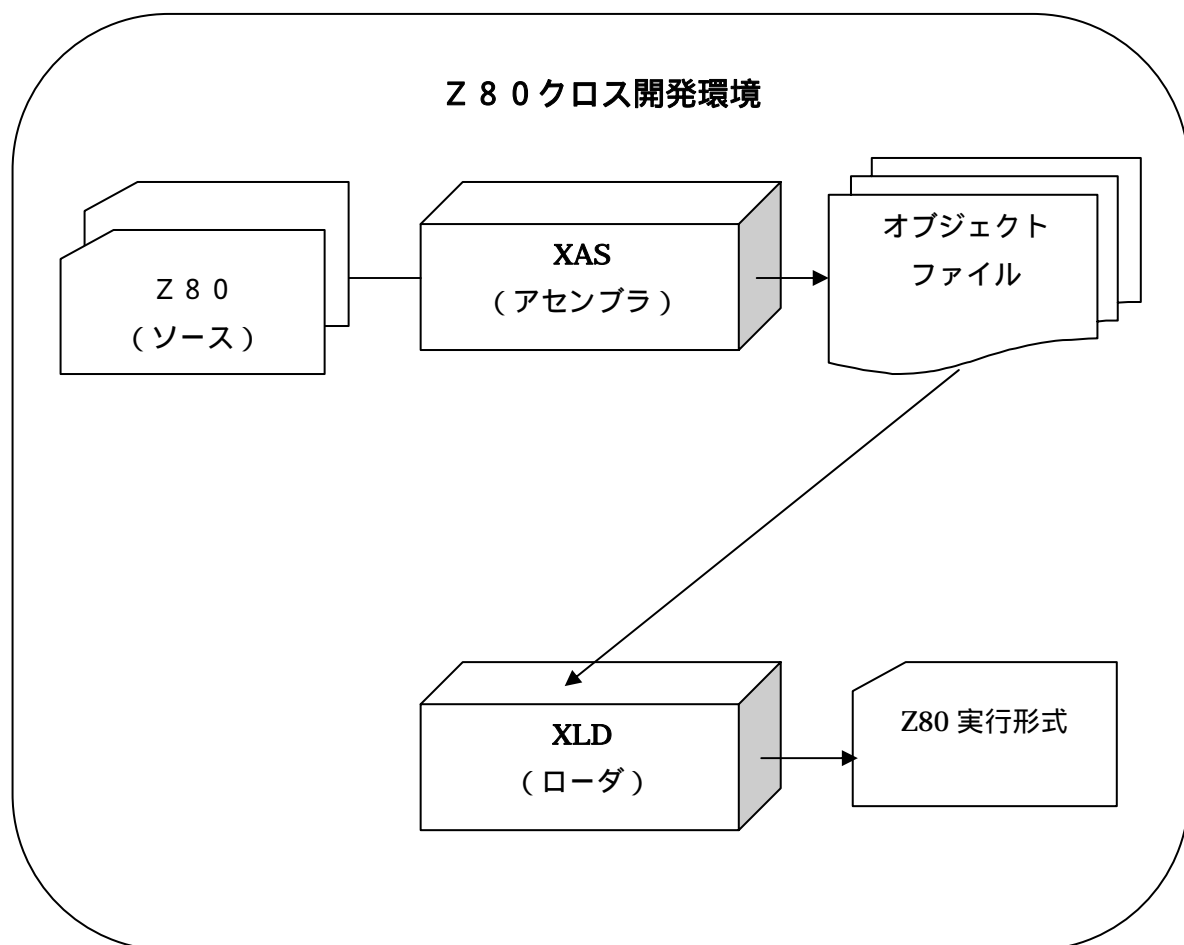
開発環境のプログラムは、3つのプログラムから構成されています。

Z80 交叉アセンブラ (XAS)

Z80 交叉ローダ (XLD)

インテルヘキサ変換 (ITOB)

2.1 Z80 プログラム開発概要図



3.インストール方法

プログラムは、LZH 形式で配布されますので、LHA（または、Lhaca,Lhasa 等の解凍プログラム）にて解凍後、setup.exe をダブルクリックすると、インストールプログラムが実行されますので、表示の内容に従って操作して下さい。

既に、古いバージョンをインストールされている方で、ユーザー登録されている方は、ユーザー登録番号を必ずメモしてからアンインストールして下さい。

インストール後、必要に応じてユーザー登録し直して下さい。

インストールが正常にできない場合は、再度、Windows を起動し直してから setup.exe を再実行してください。

また、HDD の空き容量が十分（10Mbyte 以上）か確認して下さい。

WindowsVista/XP/2000 では、管理者権限が必要です。

4.使用期限（お試し期間）

本プログラムは、シェアウェアにつき使用期限があります。インストール日より 20 日間がお試し期間で、それ以降はユーザー登録が必要となります。期限後、ユーザー登録されませんと起動することができませんので、ご了承の上ご利用下さい。

継続してご利用にならない場合は、必ず、アンインストールして下さい。アンインストールしませんでした、レジストリ情報が残ったままとなりますのでご注意ください。パソコンの動作に影響はありませんが、ゴミとして残ってしまいます。

5.起動方法

本プログラムの起動は、コマンドプロンプトよりコマンドを投入することにより起動します。操作手順については項番 10 で説明します。

6.アンインストール方法

[スタート]-[プログラム]-[Seiken-Soft]-[Z80 加算開発環境]-[アンインストール]をクリックして下さい。

あとは、アンインストール画面に従って実行して下さい。

7.著作権

本プログラム、及びマニュアルは日本国の著作権法によって保護されています。

著作権は、株式会社セイケン・ソフトサービスが保有しています。

但し、本プログラムをインストール、又は、使用および、その実行結果により生じたいかなる損害に対しても一切責任を負いませんのでご承知下さい。

承知できない場合は、直ちに利用を止めて必ずアンインストールして下さい。

8.転載条件

メールにて必ず当社へ報告、及び承諾を得ること。(メールは、当社のホームページよりお願いします。)

URL は、以下の通り。

<http://www.seiken-soft.com> [問い合わせ]よりメール送信して下さい。

9.シェアウェア登録のお願い

本プログラムは、シェアウェアです。お試し期間の20日を過ぎて継続してご利用になる場合は、以下の登録料をお支払い下さい。尚、お試し期間を過ぎますと起動できなくなります。

- | | |
|-------------------|----------------------|
| (1) 個人の場合 | 2,100円(パソコン1台に限る)税込 |
| (2) 法人の場合(個別台数契約) | 2,100円(パソコン1台につき)税込 |
| (3) 法人の部署ライセンス契約 | 21,000円(部署内に限り無制限)税込 |

送金方法については、別紙の「Z80 加工開発環境送金方法.pdf」を参照して下さい。

個人の場合は、(株)Vector シェアレジ・プロレジからのオンライン送金と銀行振込、郵便振替により送金できますが、法人の場合は、銀行振込、郵便振替のいずれかになります。

9.1 ユーザー登録

シェアウェア登録後、登録番号が送付されますので、

[スタート]-[プログラム]-[Seiken-Soft]-[Z80 加工開発環境]-[ユーザー登録]により登録を行います。

10.操作手順

10.1 Z80 クロスアセンブラ(XAS)

XAS は Z80 アセンブラソースを入力としてアセンブルを行い、Z80 クロスリロケータブルオブジェクトファイルを作成します。

```
> xas ソースファイル名 {修飾子}
```

ソースファイル名

Z80 のソースファイル名を指定します。(拡張子が存在するファイルは必ず拡張子を指定してください。)

{修飾子}

-o	filename	オブジェクトファイル名を指定します。 省略時はソースファイル名(拡張子を除く)に拡張子XRBを付加したファイルがオブジェクトファイル名となります。
-n		オブジェクトの作成を行いません。
-l	filename	アセンブルのリスティングファイル名を指定します。省略時は、リスティングファイルは作成されません。
-x		アセンブルリスト出力時にクロスリファレンスの出力を行います。 リスティングファイルでラベルの定義行(行番に続けて#で出力)と使用している行番号を一覧出力します。
-r	filename	アセンブルエラー時のエラー情報を保存するファイル名を指定します。 省略時は、コンソール出力となります。
-e		メッセージを英語で出力します。 省略時は、英語で出力。
-j		メッセージを日本語で出力します。
-h		ヘルプメッセージを表示します。

10.2 Z80 クロスローダ(XLD) - コマンドライン指定

XLD は XAS で作成された Z80 リロケータブルオブジェクトファイルを元に Z80 実行形式を作成します。実行形式の形態はインテル HEX またはバイナリで出力を行います。

```
> xld リロケータブルオブジェクトファイル名+.... {修飾子}
```

リロケータブルオブジェクトファイル名

リンクを行うファイルを指定します。

複数のファイルをリンクする場合は「+」記号により記述します。各ファイル名の拡張子は省略可能です。

{修飾子}

-i		実行形式をインテルヘキサで出力する場合に指定します。
-o	filename	実行形式の出力ファイル名を指定します。 省略時は、リロケータブルオブジェクトファイル名の拡張子を、 BINに変更したファイル名で作成を行います。(-i が指定された 場合の拡張子はXOB)
-m	filename	マップファイル名を指定します。 省略時は、リロケータブルオブジェクトファイル名の拡張子を、 MAPに変更したファイル名で作成を行います。
-b	アドレス	コード部の開始アドレスを指定します。 本指定によりコード部を配置します。
-d	アドレス	DS EGのアドレスを指定します。
-e		メッセージを英語で出力します。 省略時は、英語で出力。
-j		メッセージを日本語で出力します。
-h		ヘルプメッセージを表示します。

10.3 Z80 クロスローダ(XLD) - 応答ファイル指定

項番 10.2 で説明したものと同様に Z80 実行形式を作成します。ただし、本書式の場合には、オブジェクトファイルの指定を応答ファイル中に記述して指定できる形式です。

```
C:Z80> xld -r 応答ファイル名
```

{修飾子}

-r filename リンク情報が定義されている応答ファイル名を指定します。

応答ファイルの書式を以下に示します。

```
OUT=出力ファイル名
OBJ=オブジェクトファイル名
:
MAP=マップファイル名
BASE=ベースアドレス
```

応答ファイル中のキーワードについて以下に示します。

OUT=実行ファイル名 リンク結果の出力ファイル名を指定します。
OBJ=オブジェクトファイル名 リンクを行うオブジェクトファイル名を指定します。
MAP=マップファイル名 マップ出力ファイル名を指定します。
BASE=ベースアドレス ベースアドレスを 16 進で指定します。
DSEG=DSEGアドレス DSEGアドレスを 16 進で指定します。

例：A . X R B、B . X R B をリンクし、実行形式ファイル C . X O B を作成する場合の例

```
OBJ=A
OBJ=B
OUT=C
MAP=MAP.LST
BASE=2000
```

10.4 インテルヘキサ変換(ITOB)

Z80 実行形式のインテルヘキサフォーマットをバイナリ形式に変換します。

```
C:\Z80> itob インテルヘキサファイル名 {修飾子}
```

インテルHEXファイル名

Z80 クロスローダで出力されたインテルヘキサファイル名を指定します。

{修飾子}

-o	filename	出力ファイル名を指定します。 省略時はインテルヘキサファイル名の拡張子を BIN に変更した ファイルに出力します。
-a	アドレス	出力開始アドレスを指定します。省略時はオブジェクトの最小有 効アドレスより出力します。
-e		メッセージを英語で出力します。 省略時は、英語で出力。
-j		メッセージを日本語で出力します。
-h		ヘルプメッセージを表示します。

11 Z80クロスアセンブラについて

Z80クロスアセンブラ(XAS)でアセンブルできる疑似命令とエラー処理等について説明します。

11.1 疑似命令

XASでは、下記の疑似命令をサポートしています。

INCLUDE	INCLUD	\$INCLUDE
MACLIB		
MACRO	EXITM	ENDM
CSEG	DSEG	
ASECT	AORG	ORG
ENTRY	GLOBAL	PUBLIC
INTERN		
EXT	EXTERN	EXTERNAL
EXTRN		
DB	DW	DS
DEFB	DEFW	DEFS
DC	DEFM	
RADIX	END	
EQU	=	ASET
REPT	ENDR	
.LIST	.XLIST	.PRINTX
IF	IFDEF	IFDEF
ELSE	ENDIF	
PAGE	TITLE	

11.2 詳細説明

(1) INCLUDE、INCLUD、\$INCLUDE、MACLIB

他のソースファイルをインクルードすることを指示します。

インクルードのネストは8レベルまで可能です。

INCLUDE	インクルード・ファイル名
INCLUD	インクルード・ファイル名
\$INCLUDE	インクルード・ファイル名
MACLIB	インクルード・ファイル名

EX .

```
INCLUDE BIOSCALL.H
```

(2) MACRO、EXITM、ENDM

マクロの記述の開始を指示します。ENDMまで同一のマクロとして処理されます。マクロ内でのマクロの使用は8レベルまで可能です。

また、マクロの実行を中断する場合はEXITM命令によりENDMまでスキップします。

マクロ名	MACRO	パラメータ [, パラメータ . . .]
------	-------	-------------------------

EXITM

ENDM

EX .

```

SYS   MACRO   BIOS_NO
      RST     30H
      DB      BIOS_NO
      ENDM

```

(3) A S E C T

絶対セクションであることを指示します。

```
A S E C T      ROM ;ROM領域
A S E C T      RAM ;RAM領域
```

E X .

```
          A S E C T      ROM
```

(4) A O R G

絶対セクションのアドレスを指示します。

本疑似命令で指示されたアドレスでアセンブルされます。

A S E C T 疑似命令を本疑似命令以前に記述する必要があります。

```
A O R G      アドレス
```

E X .

```
          A S E C T      ROM
          A O R G      0H
          J P          INITIAL
```

```
          A O R G      8H
          J P          WORM
```

(5) O R G

アドレスを指定します。本疑似命令で指示されたアドレスでアセンブルされます。

```
O R G      アドレス
```

E X .

```
          O R G      0H
          J P          INITIAL
```

(6) C S E G

C S E G以降がコードセグメントであることを指示します。
通常はコードセグメントとしてアセンブルされます。

```
C S E G
```

```
E X .
```

```
CSEG
```

(7) D S E G

D S E G以降がデータセグメントであることを指示します。
また、D S E G以降にD S命令以外を指定しないで下さい。

```
D S E G
```

```
E X .
```

```
DSEG
```

(8) E N T R Y、G L O B A L、P U B L I C、I N T E R N

指定されたラベルが他のモジュールから参照されることを示します。

```
E N T R Y      ラベル [ , ラベル ]
```

```
G L O B A L   ラベル [ , ラベル ]
```

```
P U B L I C   ラベル [ , ラベル ]
```

```
I N T E R N   ラベル [ , ラベル ]
```

```
E X .
```

```
ENTRY      LABEL
```

(9) EXT、EXTERN、EXTERNAL、EXTRN

指定されたラベルが他のモジュールに定義されていることを示します。

```

EXTERN    ラベル [ , ラベル ]
EXT       ラベル [ , ラベル ]
EXTERNAL  ラベル [ , ラベル ]
EXTRN    ラベル [ , ラベル ]

```

EX .

```

        EXTERN    LABEL

```

(10) DB、DEFB

指定されたデータを実行ファイルへ出力します。

```

DB       データ [ , データ . . . ]
DEFB    データ [ , データ . . . ]

```

EX .

```

        DB       10           ・ 10 進
        DB       0FFH        ・ 16 進
        DB       01001001B   ・ 2 進
        DB       'XAS'       ・ 文字列
        DB       F'3.14'     ・ BCD フロート

```

(11) DC、DEFM

指定された文字列を実行ファイルへ出力します。

```

DC       データ [ , データ . . . ]
DEFM    データ [ , データ . . . ]

```

EX .

```

        DC       'XAS'       ・ 文字列
        DEFM    'XAS1'      ・ 文字列

```

(12) DW、DEFW

指定されたデータ 2 バイトを実行ファイルへ出力します。

```
DW          データ [ , データ . . . ]
DEFW       データ [ , データ . . . ]
```

EX .

```
          DW          10          ・ 10 進
          DW          0FFFFH     ・ 16 進
          DW          LABEL     ・ ラベル指定
```

(13) DS、DEFS

指定サイズのエリアを確保します。

```
DS          バイトサイズ
DEFS       バイトサイズ
```

EX .

```
          DS          10
```

(14) RADIX

この命令以降の基底値の変更を指示します。

XAS 起動時には 10 進が基底値です。

```
RADIX      10 ; 基底値を 10 進とする
RADIX      16 ; 基底値を 16 進とする
```

(15) END

ソースファイルの終了を指示します。

END 命令以降に命令が記述されていてもアセンブルは行われません。

END

(16) EQU、 =

ラベルへ式の値を割り付けます。

ラベル	EQU	式
ラベル	=	式

EX .

L1	EQU	10
L2	=	L1 + 5

(17) ASET

EQUまたは=命令で定義したラベルに値を再定義します。

ラベル	ASET	式
-----	------	---

EX .

L1	EQU	10
L1	ASET	L1 + 5

(18) REPT、 ENDR

ENDRまでのソースを式で指定された回数分展開を繰り返します。

REPT	式
------	---

ENDR

EX .

REPT	5
DB	00H
ENDR	

(19) .LIST、.XLIST

プリント・ファイルへの出力を開始（省略時値）または，出力を禁止します。

.LIST 出力開始

.XLIST 出力禁止

EX .

.XLIST

INCLUDE BIOSCALL.H

.LIST

(20) .PRINTX

コンソールへパラメータで指定された文字列または値を表示します。

文字列の場合は 文字列 の形式で指定します。

.PRINTX パラメータ [、パラメータ・・・]

EX .

.PRINTX 'XXX INCLUDE 処理中です'

L1 EQU 1

.PRINTX L1

L1 ASET L1+20

.PRINTX L1

(21) I F、E L S E、E N D I F

式で指定された結果が真（値が0以外）の場合、E L S E（E L S E未指定の場合E N D I F）までをアセンブルします。

また比較演算子として「<」、「>」、「=」が使用できます。

I F 式

E L S E

E N D I F

E X . 下記例の場合、E L S EからE N D I Fまでがアセンブルされます。

```
L1     EQU     10
L2     EQU     20
       IF       L1 > L2
         LD     A,1
       ELSE
         LD     A,2
       ENDF
```

(22) I F D E F、I F N D E F、E N D I F

指定されたラベルが定義または未定義かの判定を行い、真の場合、E L S E (E L S E 未指定の場合 E N D I F) までをアセンブルします。

```

I F D E F      ラベル
               ラベルが定義されている場合 E L S E までをア
               センブル
E L S E
E N D I F

I F N D E F    ラベル
               ラベルが未定義の場合 E L S E から E N D I F
               までをアセンブル
E L S E
E N D I F

```

E X . 下記例の場合、E L S E から E N D I F までがアセンブルされます。

```

L1      EQU      10
        IFNDEF  L1
        LD      A,1
        ELSE
        LD      A,2
        ENDIF

```

(23) P A G E

アセンブルリスト出力時に改ページを行います。

```

P A G E

```

(24) T I T L E

アセンブル時の見出しを指定します。

アセンブル時には、コンソールに表示を行います。

T I T L E	見出し
E X .	
TITLE	Z80

11.3 エラー処理

XASではパス1でソースを読み込みZ80の機械語に変換を行い、全てのソースを読み込み後、未解決データの変換を行います。

このため、それぞれでのエラーが発生した場合は、エラーファイル（エラーファイル省略時は、コンソール）へ出力を行います。

(1) パス1でのエラー

アセンブルでエラーとなった場合、エラーとなった行を出力します。

ファイル名	行番号	E T	ソースライン内容
-------	-----	-----	----------

Eはエラーサインを示し、内容は以下の通りです。

S	命令が存在しない
O	オペランドのエラー
U	未定義のラベルを指定した
A	アドレス指定の誤り
L	ラベルエラー
M	ラベルの重複エラー
I	IF命令でのエラー
R	REPT命令でのエラー

Tは行属性を示し、内容は以下の通りです。

スペース	通常のソース行である。
*	インクルードファイル内でのマクロ展開である。
-	インクルードファイルのソース行である。
+	マクロ展開である。

(2) 未解決データ変換処理でのエラー

変換処理でのエラー発生時は、以下の形式で出力します。

- ・ファイル名（行番号） Address Error
JR命令等においてアドレスが範囲外となった。
- ・ファイル名（行番号） Syntax Error
記述に誤りがあるか、または、ラベルが未定義である。

11.4 リスティングファイルのフォーマット

コマンドでリスティングファイルが指定された場合、以下の形式でファイルへ出力します。

		1	INCLUDE	A.H
0064		1-	LABEL EQU	100
0000	54455354	2	DB	'TEST'
0004	1A	3	DB	'Z'-40H
0005	000000	4	DB	0,0,0
0008	45584530	5	DB	'EXEC01'
000D	000000	6	DB	0,0,0
0010	310046	7	LD	SP,4600H
0013*	1800	8	JR	

ソースの内容

行の属性 (エラー処理参照)

オブジェクトのデータ

パス 1 で未解決のデータがある場合、[*] を出力

アドレスまたは EQU 値

エラーサイン (エラー処理参照)

11.5 制限事項 / 特記事項

(1) 疑似命令

疑似命令での制限事項を以下に示します。

- ・ R E P T のネスト出来ません。

(2) 1 ラインの文字数

1 ラインは 1 2 8 文字以内で記述しなければなりません。

(3) 1 ライン内のオペランド数

1 ラインのオペランド数はラベル、命令およびオペランドの合計が 3 1 以内で記述しなければなりません。

(4) 式

式には以下の演算子を使用できます。() についても使用可能です。

+	加算
-	減算
*	乗算
/	除算
MOD	剰余
&	論理積
	論理和
^	排他的論理和
~	1 の補数

E X .	L1	EQU	10
	L2	EQU	5
	L3	EQU	L1 + L2
	L4	EQU	L1 - L2
	L5	EQU	(L1 + 20) * L4
	L6	EQU	(L1 + L2) / 2
	L7	EQU	L1 MOD L2
	L8	EQU	L1 & L2

(5) B C D フロートの記述形式

D B 疑似命令での B C D フロート記述形式を以下に示します。

D B F { + / - } 指数部・仮数部

指数部のサインは+の場合、省略可能です。

また、仮数部についても省略可能です。

仮数部の記述形式は、

E { + / - } 仮数

で、サインについては+の場合、省略可能です。

例) D B F'-3.14E-5'

12. Z80クロスローダについて

12.1 MAPファイルのフォーマット

XLDコマンドでMAPファイルの指定が行われた場合は、リンク結果の情報を以下の形式で出力します。

(1) 各モジュールのアドレス配置情報

```
Module Linkage Map
  Addr  Size  Module
  0000  0277  MAIN
```

(2) GLOBALまたはENTRY宣言の配置情報

```
Global Symbol Map
  Addr      Symbol
  0277      MAIN
```

(3) データセグメント配置情報

```
Dseg Symbol Map
  Module  Addr  Size  Symbol
  MAIN    4310  0001  MAIN
```

12.2 絶対セクションのアドレス解決

ソースファイルでASECT指定が行われている場合、AORG値によりオブジェクトをアドレス解決（配置）していきます。

複数のオブジェクトでASECT指定されている場合はエラーとなります。

また、ASECT指定のオブジェクトはコマンドラインまたは応答ファイルで先頭に記述（指定）しなければなりません。

12.3 データセグメントのアドレス解決

XLDでは、データセグメントを8000H番地からアドレス解決していきます。

ただし、/DSEGでDSEGアドレスを指定した場合は、指定アドレスよりアドレス解決を行います。アドレス解決の順序を下記に示します。

- (1) まず、GLOBALまたはENTRY宣言されたものを8000H番地より配置します。
(/DSEG指定時は指定アドレスより)

- (2) 次に、GLOBALまたはENTRY宣言されていないものを(1)で配置されたアドレス以降に配置します。

12.4 エラーメッセージ

X L D コマンド実行時のエラーメッセージについて説明します。

- Command Line Error
コマンドラインの指定に誤りがある。
- Switch Error
コマンドラインのスイッチ指定に誤りがある。
- Responce File Syntax Error
応答ファイルに誤りがある。
- Memory Alloc Error
メモリが確保できませんでした。
- External Symbol Undefined
外部シンボルが定義されていない。
- Convert Error
アドレス解決等においてエラーが発生した。
- Not XRB Format File
オブジェクトファイル以外が指定された。
- Not XLB Format File
ライブラリファイル以外が指定された。
- Object Size Over
オブジェクトのサイズが 6 4 K B を越えた。
- Asect Addr Error
絶対セクションのアドレスが既に定義済みです。複数のモジュールで絶対セクションを指定することはできません。

13.おわりに

これからも便利で役立つ製品を開発していく所存です。今後とも当社の製品を末永くご利用頂ければ幸いです。

開発チーム一同

販売元：〒144-0032 東京都大田区北糞谷 1 - 6 - 7
株式会社セイケン・ソフトサービス
<http://www.seiken-soft.com>